

## 筑波大学国際テニストーナメントの開催について

山田幸雄

つくば市には、たくさんの公園があり、そこには必ずテニスコートが併設されている。また、数多くの研究所にも必ずテニスコートがあり、多くの人々がプレーを楽しんでいる。

つくば市に筑波都市整備（URの関連会社）という株式会社がある。つくば市と竜ヶ崎市の拠点があり、商業施設や公園などの公共施設の管理運営、ガスなどの熱供給事業などを行っている。つくば駅にある西武百貨店などが入っている建物も筑波都市整備（株）が管理運営をしている。また、広大な敷地を持つ万博公園や北部公園の管理運営も行っている。それら公園の施設では、テニス、水泳、バドミントン、サッカーなどのスポーツ教室が筑波大学の協力のもとで開催されている。

数年前に、人文学類を卒業したテニス部の後輩の女性とともに、つくばテニス科学センター（TTSC）というテニスの普及を目的とした非営利団体を立ち上げた。毎週土曜日の早朝に大学のテニスコートを利用して、テニス研究室に所属する大学院生を中心としたスタッフによって小学生テニス教室を開催している。また、筑波都市整備（株）が管理する公園のテニスコートを用いて、子供から大人までのテニス教室を運営している。さらに、できるだけ多くの子供たちにテニスの試合を経験してもらうことを目的に、学生や近隣の主婦の方々のサポートを受けながら、大学のテニスコートや筑波都市整備（株）が管理しているテニスコートを利用して、小学生テニス大会（幼稚園生が参加することもある）、中学生テニス大会、さらに高校1年生テニス大会を長期の休み毎に開催している。最初のころは近隣の子供たちが中心であったが、

今では茨城県内はもとより千葉県や栃木県からも大会に参加してくれる子供たちがいる。一昨年には、福井烈さんに来てもらって講習会を開催した。詳しい情報は、つくばテニス科学センターのホームページを見ていただきたい。あるとき、筑波都市整備（株）の部長さんとつくば市の活性化について色々な話をした。「何か地域に貢献できるようなことをやりましょう」ということになり、様々な議論を重ねた。私は、女子に比べて弱い男子の強化に役立つ国際テニストーナメントを開催することにした。男子の国際トーナメントの開催数は、女子に比べて少ない。アメリカやヨーロッパまで出かけていって大会に出場するには、大きな出費を伴うことになる。そこで、「テニスの町つくば」に、そして筑波大学に相応しい、さらに日本人男子選手が飛躍するための国際トーナメントを開催することにしたのである。

主催は大学にしたいと考えた。国際テニス連盟（ITF）が公認したテニス大会を大学法人が主催するというのは、世界でも例がないのである。阿江学群長のご協力があり、大学が主催す



ウエルカムパーティーでの学長あいさつ

ることに了解が得られた。メインスポンサーである都市整備（株）の社長さんも大学主催を快く承していただいた。ここから、茨城県テニス協会、茨城県体育協会、県、つくば市への後援依頼、日本テニス協会への書類の提出、国際テニス連盟への書類の提出と筑波大学テニスコートで開催できるかのチェックを受け、何とかOKのサインをもらうことができた。実際、開催してみると苦勞の多い大変な事業であったが、テニス部の学生はじめ、まわりの皆さんの協力のもと、何とか開催できた。とくに、テニス部の学生の成長には目を見張るものがあった。国際テニストーナメントを開催するにあたっての目的は、国際交流を行うこと、テニス部の学生に様々な経験をしてもらうこと、大学らしさを出した運営を行うことの3つとした。

国際テニス連盟が公認した大会はウエルカムパーティを開催することが多い。4月4日（日）18:00～21:00まで、5C棟2階学生支援広報フロアにおいて、ウエルカムパーティを開催した。日曜にも関わらず、山田学長、鈴木副学長、清水副学長、田中副学長、阿部学校教育局長、永田学長補佐室長、阿江学群長、野村学系長、宮下センター長に出席いただいた。筑波都市整備（株）からも社長をはじめ多くの方が出席していただいた。大学らしさを出すために、タイの留学生による民族舞踊、応援団の演武、放送サークルによる司会進行を依頼した。また、料理も筑波大学タイ



ウエルカムパーティーでのタイ人留学生によるダンスのようす

人会の留学生にタイ料理をお願いした。

大会は、4月3日（土）～4月11日（日）で行われた。タイテニス連盟にはとくに依頼して、タイから選手を派遣してもらった。筑波大学テニス部はチュラロンコン大学テニス部と対抗戦をしたことがあり、今でもささやかな交流が続いている。そのほかにも韓国、オーストラリア、アメリカ、イギリス、オランダ、スペインから出場してくれた。

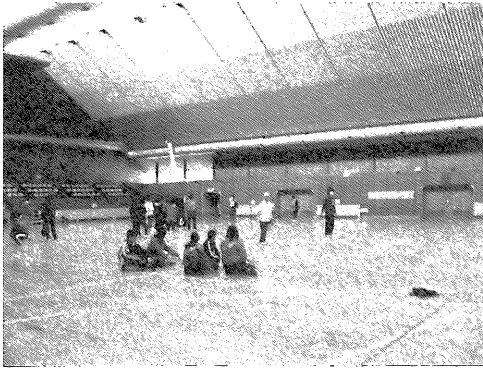


決勝戦前のダンス部によるダンスのようす

体育専門学群の先生だけでなく、他学群の先生方も観戦に見えられた。新学期ということもあり、新入生が通りすがりに立ち止まって見学していく姿も見られた。新入生に声をかけられ試合をしている選手を指差して、「あの選手知っています。すごい選手が集まっているのですね。」といわれたりもした。大会は、17歳の日本人選手が優勝して終わった。



優勝者によるスピーチ



ブラインドテニスの普及のための講習会  
(洞峰公園体育館)

その選手は、ランキングを上げ成長しているようである。今後は、筑波大学から上位進出者が出てくれればなあと思っている。

第2回大会の今年は、テニス研究室の学生にベトナム、ミャンマー、シンガポール、中国などのテニス協会や大使館などと交渉をさせている。それらの国々の選手が大会に来てくれるかどうかはわからないが、様々な経験を積むということでもいいのではないかと考えている。

国際大会の開催は、想像しているよりも本当に大変であるが、様々な方からのサポートを受けながら、何とか継続していきたいと思っている。